

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年版、名古屋建築環境総合性能評価システムマニュアル2016) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)営業本部ビル	階数	地下1F、地上7F
建設地	名古屋市東区白壁三丁目2801番1、2809番1、2810番1	構造	SRC造
用途地域	第1種住居地域、第2種住居地域	平均居住人員	70人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2022年1月20日
敷地面積	1,989 m ²	作成者	
建築面積	896 m ²	確認日	2022年1月20日
延床面積	3,672 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BE3.1 ★★★★★★

★: S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
総合 外皮性能の向上、高効率機器の採用やリサイクル材の使用による建物と環境の両面に配慮された計画。また、庭園やバルコニー等の植栽計画による景観への配慮も行ったオフィスビル。		
Q1 室内環境 高断熱化ペアガラスを採用し、室内の温熱環境の向上に配慮した。 各間仕切壁は遮音性能にも配慮し、作業環境の向上に配慮した。	Q2 サービス性能 各階の階高に余裕を持たせ、ゆとりある空間創出に努めた。 設備ルートをシンプル化し、維持管理と更新性に留意した。	Q3 室外環境(敷地内) 屋上緑化、庭園、バルコニーや駐車場周辺の植栽計画により、周辺環境に配慮した。また、空調の室外機を2Fレベルに設置することで、地上の温熱環境に配慮した。 建物デザイン、ボリュームにおいて周辺環境に配慮した計画とした。
LR1 エネルギー LED照明等の高効率設備を導入し、建物の省エネルギー化を図った。 通風や排水利用、地中熱利用を積極的に採用し、自然エネルギーの活用を図った。	LR2 資源・マテリアル 節水型機器を採用するなど資源の保護に配慮した。 リサイクルによる再生材を広く採用し省CO ₂ に貢献するものとした。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出量の抑制により地球温暖化への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)営業本部ビル

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策			4.5
LR1 エネルギー	4.7	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生			2.5
Q3.1 生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会			3.9
LR2.1 水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	4.0	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.5



2. 自然共生

評価点 = 2.5



3. 循環型社会

評価点 = 3.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。